インフルエンザ、今季流行の恐れ　感染症学会が提言

2022 年 8 月 16 日　日本経済新聞

日本感染症学会は季節性インフルエンザが今季、国内で流行する可能性が高いとする提言をまとめた。オーストラリアなど南半球で 2022 年に入ってから流行していることを踏まえた。国内では新型コロナウイルス感染症の影響で過去 2 年間はインフルエンザがほぼ流行しなかった半面、社会全体の免疫が下がっているとして高齢者や子どもへのワクチン接種が重要と呼びかけた。

インフルエンザの予防接種

北半球で冬季にインフルエンザが流行するか予測する際、約半年先立つ南半球の冬季の流行状況が参考になるとされる。オーストラリアでは新型コロナウイルス感染症の世界的大流行（パンデミック）が起きて以降、インフルエンザの報告はほとんどなかった。

だが 22 年 4 月後半から報告が増え、5 月から 6 月にかけては 1 週間当たりの報告数が過去 5 年間で最多となった。その後減ったが流行規模の小さかった 18 年と比べるとなお多い状態が続く。

日本感染症学会は、今後海外からの入国制限が緩和されて人の行き来が増えれば国内にウイルスが持ち込まれ、「今秋から冬には同様の流行が起こる可能性がある」と指摘した。

いったん感染が起きると、インフルエンザへの免疫が下がっている子どもを中心に大流行する恐れもあるとした。6 月には東京都内の小学校でインフルエンザによる学年閉鎖が起きたことから、こうした季節外れの流行の可能性にも触れた。

その上で、感染すると肺炎を起こすリスクの高い高齢者や 5 歳未満の子ども、心臓や肺に持病のある人などへのワクチン接種が特に必要と指摘した。こうした人と同居する人も積極的に接種を受けてほしいと呼びかけている。